

北仲まち歩きツアー案内マップ

- 各回先着 20名
- 所要時間 30分程度

昨年から始めた北仲まち歩きツアーは、より気軽にご参加いただけるよう北仲地区の魅力をごっつと詰め込んだショートコースをご用意しました。

開港以来の歴史から現在進行中のプロジェクトまで、時代とともに変化する北仲地区の姿をご覧ください。ささやかな参加賞もご用意してお待ちしております。

集合
場所

横浜アイランドタワー
エントランスホール

開催
日時

10/21 (土) 14時 30分～
10/22 (日) 10時 30分～ / 14時 30分～



北仲地区内の歴史的建造物等

※各歴史的建造物等の位置は、表面の案内マップでご確認いただけます。(先頭のアルファベット&数字に対応しています)

A 旧横浜銀行本店別館

1929(昭和4)年に建設されたトスカーナ式オーダーの列柱と半円形のパルコニーが特徴の建物です。設計は西村好時。北仲通南地区第二種市街地再開発事業により横浜アイランドタワーの足元に曳家・復元されました。



旧横浜銀行本店別館

B 旧生糸検査所

初代生糸検査所が関東大震災で壊滅的な被害を被った後、1926(大正15)年に2代目として建設されました。設計は遠藤於菟。耐震耐久性の問題から横浜第二合同庁舎建設に伴い解体され、新庁舎の足元に外観が復元されました。



外観が復元された旧生糸検査所
(横浜第二合同庁舎)

C 旧万国橋ビル

関東大震災の震災復興建築の一つで、1928(昭和3)年に建設されました。北仲通北土地区画整理事業の公園整備に伴い解体されましたが、アパホテル&リゾート〈横浜ベイタワー〉の足元に外壁2面が復元されています。



外壁復元された旧万国橋ビル
(アパホテル&リゾート〈横浜ベイタワー〉)

D 旧帝蚕倉庫事務所および倉庫群

旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用倉庫(通称「旧帝蚕倉庫」)4棟と旧横浜生糸検査所附属倉庫事務所(通称「旧帝蚕倉庫事務所」)は1926(大正15)年に建設されました。設計は遠藤於菟。北仲ブリック&ホワイトの施設の一部として、事務所が原位置保存、倉庫2棟が復元(うち1棟は外壁復元)されています。



原位置保存された事務所



復元された倉庫群(歴史広場)

E 大岡川河口護岸 荷揚場

明治初期に英国人技師ブラントンの設計により石積護岸が整備されました。大岡川右岸には、荷揚場、4ヶ所の階段、北仲橋下流には、波返し構造形式をもつ橋台などがあつた、大変貴重な施設群です。



大岡川河口護岸

F 日刊新聞発祥の地

明治3年12月8日(新暦の1871年1月28日)に日刊新聞「横浜毎日新聞」がこの地で誕生。同紙は、冊子型木版刷りの旧型から活字一枚刷りの現代型へと切り替えた画期的なもので、横浜市役所完成に伴い記念碑が再建されました。



日刊新聞発祥の地

1 A-1・2 地区

歴史的建造物と調和するクラシカルな低層部と、空に溶け込むようなガラス基調の高層部から成り、MICE誘致可能な大型バンケットを有するラグジュアリーホテル及び大型住戸を中心とした24時間外国人対応のサービスを提供するハイグレードマンションを供給することで、横浜の国際競争力向上に寄与します。2026年度建物竣工予定。



北仲橋から見た外観パース

2 B-1 地区

北仲エリアのラストピースとして、海沿いのプロムナードや広場とともに、賑わいや創造的活動を生み出す商業施設・オフィス、横浜都心の新たなライフスタイルを生み出す居住機能等を今後整備して参ります。港町として歴史ある横浜の情緒や風情を承継しながらも未来の横浜のシンボルとなり誰もが憧れる「まち」を描いていきます。2027年度建物竣工・開業予定。



自動車道側から見た外観パース